

# 誰もが笑顔で暮らせるように

障がい者と社会をつなぐ活動をする福祉会の塩田さんにお話を聞きました。

## Q1 会員にはどのような方がいますか？

身体障害者福祉会は市内在住で身体障害者手帳の交付を受けている18歳以上の会員で組織しています。また、本会の趣旨に賛同するご家族などに賛助会員として、運営にご協力をいただいています。

## Q2 どのような活動をしていますか？

会員の親睦と健康増進を目的に、障がい者の方に、人との関わりや社会参加の機会を提供することで、楽しいひと時を共有できるように活動しています。

具体的には、簡単なクイズ問題に挑戦する脳トレや、施設内を自分のペースで移動する行動訓練などです。また、カラオケや温泉入浴、年1回の研修旅行などで交流を深めています。

## Q3 活動の中で心掛けていることはありますか？

健常者との研修旅行となると「移動やトイレなどの時間に迷惑を掛けてしまうかもしれない」と心配し、参加しづらいとの声も聞くため、障がい者の方々のペースで楽しめるように十分に余裕を持った行程を心掛けて企画しています。

本会では、障がい者の方やご家族に寄り添い、誰もが笑顔で暮らせるような活動をしています。興味のある方の入会をお待ちしています。

問い合わせ 須賀川市身体障害者福祉会 ☎(89)1777



須賀川市身体障害者福祉会  
会長 塩田邦平 さん

12月3日～9日は障がい者週間



# 歩み寄りの心を

社会福祉課 ☎(88)8112

須賀川手話サークルあゆみ会と須賀川地方聴力障害者会は、ろう者の福祉向上や、健聴者との相互理解のため、合同の勉強会などで親睦を深めています。今月号は、誰にでも身近な「障がい」についてのお話です。

約17人に1人が  
障がいを持っています

今年4月1日現在、市内で障害者手帳を所持する人は、4362人(身体3050人・療育796人・精神516人)です。これは、市の人口の約5・8%を占め、約17人に1人が何らかの障がいを持ちながら、生活していることとなります。

また、障がいに対する社会全体の認識が高まり、ハードルが下がったことで、障がいをより身近なものとして捉えはじめたことなどによって、障がい者数は増加傾向にあります。

## 地域全体で障がいを 持つ人をサポート

市では、障がいを持つ人も持たない人も、ともに笑顔で明るく暮らせるまちを目指しています。このため、在宅福祉サービスの充実や、地域福祉施設など関係機関と連携しながら、社会参加促進のための積極的な支援を行っています。

また、障がいを正しく理解するための研修会や講演会を開催し、受講者の理解を深めるとともに、手話奉仕員や要約筆記者の養成講座などを行い、登録通訳者やボランティアスタッフなどの育成に努めています。

## 私たち一人一人ができること

障がいにより、日常生活の様々な場面で困難を感じるときがあります。

障がいを持つ人への配慮は、それぞれの個性を理解して接することが第一歩で、一人一人の気持ちの積み重ねが何より大切です。

「お困りですか?」何かお手伝いしますか? などと声を掛け、互いに歩み寄りの心を持ち、それぞれの個性を認め合い、誰もが笑顔で明るく暮らせるまちを一緒に作りましょう。

## 知っていますか? あなたの周りのマーク

### 障害者のための国際シンボルマーク



障がい者が利用できる建物・施設であることを表すための世界共通のシンボルマークです。このマークは「全ての障がい者を対象」としたもので、車椅子を利用する障がい者に限定していません。

### 耳マーク



自分の耳が不自由であることを表すのに使用します。また、自治体や病院、銀行などがこのマークを提示し、耳の不自由な人から申し出があれば必要な援助を行うという意思表示に用います。

### 身体障害者標識



肢体不自由であることを理由に、免許に条件を付されている人が運転する車に表示するマークです。マークの表示は努力義務となっています。

### ハート・プラスマーク



目に見える障がいだけでなく、身体内部に障がいを持つ人のためのマークです。身体内部の障がいは、外見で分かりにくい様々な誤解を受けることがあります。

### 手話マーク



耳の聞こえない人が手話でのコミュニケーションを求めるときに提示します。また、手話での対応ができる公共・民間施設などで掲示できます。

### ヘルプマーク



義足や人工関節を使用している人、妊娠初期の人など、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている人が、周囲に知らせることができるマークです。